

県内企業景気動向調査

結果の概要

調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内景気の動向について把握するために実施した。

調査の方法

オンライン・アンケート(766社)並びにヒアリング(30社)

オンライン・アンケートの集計方法

すべての質問項目についてDI(Diffusion Index)値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は次の通り。

「自社の業況DI値」=(「良い」と回答した企業の割合)
- (「悪い」と回答した企業の割合)

調査時点

オンライン調査:平成17年2月1日(火)~10日(木)

ヒアリング調査:平成17年2月28日(月)~3月11日(金)

地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上市市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、立川町、余目町、藤島町、羽黒町、榑引町、三川町、温海町、朝日村
庄内飽海	酒田市、八幡町、遊佐町、松山町、平田町

【要旨】

- 今期(10-12月期)、県内企業の業況判断を示すDI値(「自社の業況DI値」)は前期(7-9月期)比3.2であり、前回(平成16年11月)調査と比べて4.5ポイント悪化した。
- 業種別に見ると、製造業で自社の業況DI値が前期比4.3ポイント改善の17.2となっており、依然として改善基調。ただ、これまで改善を牽引してきた輸送、電機関連業種にやや一服感もみられることから、若干弱含んでいる。その他の業種では概ね悪化した。
- 地域別に見ると、最上地域と置賜地域で前回調査から業況判断DI値がプラスからマイナスに転じ、村山地域の改善のみが目立つ形となった。
- 景気の先行き見通しは、自社の業況DI値が今期(前期比の値)より11.5ポイント悪化の14.7となっており、引き続き業況の悪化が見込まれる。

景気天気図

天気図とは、地域別・業種別の景気動向を見比べるため、自社の業況DI値(前期比)を5段階に分けて図解したもの。「天気図の凡例」をご参照のこと。

天気図の凡例

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI 30	30 > DI 10	10 > DI 10	10 > DI 30	30 > DI

(前回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

(今回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

全業種（回答企業347社、回答率45.3%）

現状判断：業況は悪化している。

業況は、自社の業況DI値が前期（平成16年7 - 9月期）比4.5ポイント悪化の 3.2となっており、前回（平成16年11月）調査よりも悪化した。

業種別には、唯一製造業が4.3ポイント改善し17.2となったものの、それ以外の業種は悪化した。ただ、不調業種の中でも経営努力に余念がない企業は好調を維持しており、引き続き同一業界内の優勝劣敗も色濃く現れた。

来期見通し：引き続き、悪化が見込まれる。

業況の先行き見通しは、来期（平成17年1 - 3月期）の自社の業況DI値が今期より11.5ポイント悪化の 14.7となっており、引き続き業況の悪化が見込まれる。

公共投資の回復見込みが立たない建設業の業況悪化に加え、“冬枯れ”や大雪による客足の鈍化など、例年以上に冬のダメージが大きい卸・小売業やサービス業における業績の下振れが予想される。

地域別の動向：村山のみ好調を維持、それ以外は低調。

地域別では、最上における自社の業況DI値が前期比2.9ポイント悪化の 2.9、置賜では25.0ポイント悪化の 12.7となっており、いずれも前回調査プラスからマイナスに転じるなど、景気の悪化が目立った。

唯一改善したのが村山南部であり、前回調査より13.3ポイント改善の14.2であった。「好調な村山地域」と「低調なその他地域」という構図が見て取れる。

		自社業況	売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
前期比	11月調査	1.3	3.4	0.3	6.0	10.5
	2月調査	3.2	4.1	17.3	1.4	17.0
来期の見通し		14.7	16.1	19.6	7.7	30.2

建設業（回答企業84社、回答率45.9%）

現状判断：依然として悪化基調。

業況は、自社の業況DI値が前期比13.9ポイント悪化の 27.4となっており、依然として悪化基調を維持している。

依然として公共投資の減少に歯止めがかからないことなどから、全般的に受注環境の改善が進んでいないことが主な原因。手持工事高DI値は前期比16.1ポイント悪化の 30.9であった。

来期見通し：業況はさらに悪化の見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が21.4ポイント悪化の 48.8となっており、業況のさらなる悪化が見込まれる。

特に受注環境の目立った改善も予想されにくく、手持工事高DI値も10.8ポイント悪化の 41.7となっている。内部留保の少ない業者ほど厳しい局面を迎えるものと予想される。

地域別の動向：村山北部、庄内田川で悪化が目立つ。

地域別では、村山北部における自社の業況DI値が前期比30.8ポイント悪化の 30.8、庄内田川で27.5ポイント悪化の 33.4となり、業況の悪化が目立った。

その他、最上で13.4ポイント改善し 13.3となったが、手持工事高の悪化も懸念されるなど、回復に力強さを欠く展開であった。

		自社業況	業界業況	完成工事高	営業利益	手持工事高	人員・人手	資金繰り
前期比	11月調査	13.5	45.9	12.1	29.7	14.8	2.7	24.3
	2月調査	27.4	54.7	28.6	45.3	30.9	21.5	36.9
来期の見通し		48.8	66.7	51.1	45.3	41.7	27.4	51.2

← 景気動向を図解!! →

製造業（回答企業99社、回答率48.5%）

現状判断：改善も、弱含んでいる。

業況は、自社の業況DI値が前期比4.3ポイント改善の17.2となっており、概ね改善している。

ただ、好調を維持してきた輸送機械でやや一服感が見られること、電気機械は激しい価格競争でやや消耗気味であること、半導体などの電子部品関連も全般的に調整期に入っていることなどから、一部でやや弱気の見方が漂っている。

来期見通し：業況はやや悪化する見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が18.2ポイント悪化の1.0となっており、業況もやや悪化する見込み。

電機関連や自動車関連を中心に各メーカーとも4月からの新製品導入や新生活向け需要増に対応するため、若干の繁忙も予想されるが、それでも概ね季節要因の範囲内にとどまる見込み。

地域別の動向：村山北部、置賜で一服感。

地域別では、村山南部における自社の業況DI値が前期比26.6ポイント改善の38.1、最上で14.3ポイント改善の71.4となるなど、概ね景気は回復している。

ただ、村山北部で19.3ポイント悪化の8.7、置賜で7.4ポイント悪化の18.7となるなど、比較的製造業の集積が進んでいる地域で景気回復にやや一服感が見られた。

		自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
前期比	11月調査	12.9	2.6	8.6	2.6	39.7	3.4	8.6	3.4
	2月調査	17.2	6.0	20.2	2.0	47.4	5.0	7.1	3.1
来期の見通し		1.0	14.1	4.0	10.1	40.4	23.2	4.0	20.2

卸・小売業（回答企業75社、回答率40.5%）

現状判断：依然として低調に推移。

業況は、自社の業況DI値が前期比1.2ポイント悪化の4.0となっており、依然として低調に推移している。

家電や食品関連は概ね堅調だったが、降雪の遅れで日用雑貨や衣料などの季節商品全般の売れ行きが出遅れたこと、曜日の関係で年末の売れ行きも振るわなかったことなどが影響した。

来期見通し：低調ながらも横ばいで推移する。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が今期と同じ4.0となっており、低調ながらも横ばいで推移する見込み。

例年以上に雪が多く、客足の鈍化が懸念されること、引き続き大型チェーン店の出店予定もあって競争環境の激化が予想されることなどから、概ね減収減益予想。売上高、営業利益の各DI値は6.7、10.6であった。

地域別の動向：置賜、庄内飽海の不振が目立つ。

地域別では、村山南部における自社の業況DI値が前期比18.0ポイント改善の7.7、村山北部で4.0ポイント改善の22.2であった。

ただ、置賜で11.1ポイント悪化の11.1、庄内飽海で40.4ポイント悪化の33.3、その他の地域でも概ね低調に推移しているなど、不振な地域も目立った。

		自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
前期比	11月調査	3.2	27.9	2.1	4.3	30.1	17.2	3.2	10.8
	2月調査	4.0	29.4	4.0	6.7	25.3	12.0	1.3	10.6
来期の見通し		4.0	26.7	6.7	10.6	37.4	24.0	0.0	21.3

各業種別分析

現在とこれからを徹底調査!!

サービス業（回答企業89社、回答率45.9%）

特別調査：4月入社の新規学卒者数について

現状判断：業況は悪化している。

業況は、自社の業況DI値が前期比5.4ポイント悪化の2.3となっており、悪化している。

对个人向けサービス業は、一般的に売上と客単価の下落による影響を大きく受けており、概ね業況が悪化している。対事業所向けサービス業は、製造業の好調に支えられている運輸業で好調を維持しているものの、一般的には利益確保が難しい状況が続いている。

来期見通し：業況は悪化も、季節要因の範囲内。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が4.5ポイント悪化の6.8となっており、業況のさらなる悪化が見込まれる。

ただ、業況の悪化はあくまでも“冬枯れ”によるものであること、来期の後半以降は新年度にかけて対事業所向けサービス業を中心に業況の回復が見込まれることなどから、業況の悪化も季節要因の範囲内。

地域別の動向：最上と置賜で悪化が目立つ。

地域別では、村山南部における自社の業況DI値が前期比7.1ポイント改善の12.2、庄内飽海で14.5ポイント改善の7.7となったが、それ以外の地域では悪化した。

特に、最上で83.3ポイント悪化の33.3、置賜で32.7ポイント悪化の7.7となり、いずれも前回調査プラスからマイナスに転じており、景気の悪化が目立った。

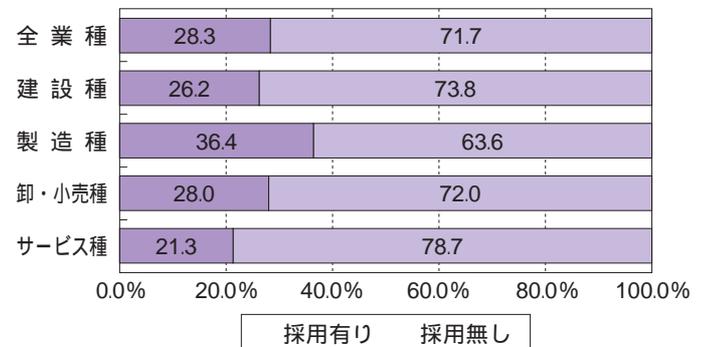
		自社業況	業界業況	売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
前期比	11月調査	3.1	10.2	3.1	7.2	11.2	11.2
	2月調査	2.3	27.0	14.6	21.3	5.6	19.1
来期の見通し		6.8	27.0	4.5	13.5	0.0	29.2

雇用環境は改善

好調業種の製造業で「新規学卒者の採用がある」と回答した企業の割合が最も高く、全業種平均の28.3%を大きく上回る36.4%であった。

また、昨年の4月と比べ、採用を「増やした」と回答した企業から「減らした」と回答した企業の割合を引いたDI値でみた場合、全業種で7.2となっており、一般的に雇用環境が改善していることがうかがえる。

【業種別・新規学卒者採用の有無】



【業種別・昨年(平成16年4月)比の採用状況】

(単位：%、ポイント)

	増えた	変わらない	減った	DI値
全業種	17.3	72.6	10.1	7.2
建設業	10.7	81.0	8.3	2.4
製造業	23.8	78.6	15.5	8.3
卸・小売業	19.0	61.9	8.3	10.7
サービス業	17.9	78.6	9.5	8.3

【当レポートに関するお問い合わせ先】
 研究開発グループ 熊本・齋藤(信)
 TEL：023(626)9017(代)
 e-mail：fns@sfsi.co.jp

以上